

Edcom—IFORS 教育委員会

柳 井 浩

IFORS (国際OR学会連盟) に Edcom (=Education Committee) と呼ばれる教育委員会が設置されている。筆者は1983年9月その委員に任命された。就任して間もないことなので、この委員会について多くを知るわけではないが、送付されてきた書簡、書類等から知り得た範囲で、その概要や活動状況をまとめ、日本OR学会会員諸賢にお伝えしておくことにする。以下にも述べるように、この委員会はもともと統制的な性格のものではなく、委員各個人の自主的な活動を主体とするもので、決議事項等もあまり明確ではないようである。また、送付されてきた参考資料も、日付の古いものが多かった。したがって、思わぬ誤解をしていないともかぎらないが、とにかく現在時点での報告という意味でご理解願いたい。

●Edcom は、OR教育の向上によって開発途上国の発展に貢献することを目的として、IFORS 運営委員会のもとにおかれる暫定設置小委員会である。

●予算は実質上ゼロであり、各委員の自発的活動を基礎として、情報交換を行なうという形がとられる。3年に1度のIFORS国際会議の会期中には、出席可能な委員によって会合が開かれるが、その他はほとんど大部分の連絡を郵便にたよっている。

Brown 現委員長は1977年以来、折にふれて Circular Letter を各委員等に送付しておられ、これが主たる通信媒体になっている。また、同氏は IFORS 加盟の各国を歴訪、委員会のメンバーや、学会の幹部との接触をはかるという個人的努力をしておられ、わが国にも1983年9月末立寄られた。このときのことについては、次ページに項を改めて書いておいたので参照してほしい。

●委員会の委員は、委員長の推薦にもとづき、IFORS 会長によって任命され、所属するOR学会の代表というよりは、個人として活動することを建前とする。——形式的にもこうしておかないと、万事大きくなって事がすままないという考えであろうと筆者は推察する。所属

やない ひろし 慶応義塾大学 理工学部

OR学会のバックアップがなければ何事もできないのは明らかである。

委員会には、正式の委員の他、IFORS 加盟のOR学会に属していないメンバーとか、通信会員として、Circular Letter を通じて意見の発表・交換を希望するメンバー等が加わるが、これらのメンバーは投票権をもたない。——もっとも、投票が必要になるようなことは、今のところまだ予想もされていない。

●各国に一定の組織形態のグループを作って、活動をさせることは避け、それぞれの希望にしたがって結成されたワーキング・グループを Edcom が追認してゆくという方式をとる。作業は、Edcom が示すサブテーマの中から、各国、各委員が状況に応じて選んで、それを行なうものとする。

●過去において示されたサブテーマの例としては、次のようなものがある。①OR教育実態調査 ②OR教育の方法論とカリキュラム調査 ③発展途上国からの留学生に対する経済援助の現状調査 ④発展途上国のORに対する需要調査 ⑤発展途上国においてOR教育を行なった先進国側の経験の交換・集積 ⑥発展途上国側のOR観調査 ⑦発展途上国のOR教育 ⑧発展途上国においてORに関心をもつ人の非公式リストの作成 ⑨各国OR学会による調査結果の出版

●過去において実際に行なわれた活動の例としては次のようなものがあげられる。①ドイツ語圏の大学の経済学部におけるOR教育に関する調査(Müller-Merbach 教授, Edcom 前委員長, IFORS 現会長) ②米合衆国においてOR学習希望の留学生に対する経済援助の実態調査(R. Burton, W. Lucas, S. Gupra) ③ヨーロッパOR学会連合におけるOR教育ワーキング・グループの結成

●わが国としても、OR教育面において、発展途上にある諸国を援助することの必要性は論をまたぬところであろう。しかし、具体的には何をなすべきか? 何が可能か? これから、会員諸賢のお知恵を拝借しつつ微力ながら事をすすめなければならぬと思う次第である。